



おい自然園 自然観察会 初夏の生きもののさがし

- 【日 時】 平成 26 年 6 月 14 日（土）午前 9 時 00 分～11 時 30 分
- 【場 所】 おおいゆめの里
- 【講 師】 一寸木 肇（おい自然園 園長）
- 【参加者】 23 人
- 【サポーター】 6 人

一寸木園長が手にしているのは何でしょうか。

正解は、**ジャガイモ**。それも新ジャガです。夏野菜は収穫の時期に入り、春とはまた違った自然の姿があります。初夏ならではの動植物や自然を発見してみましょう。

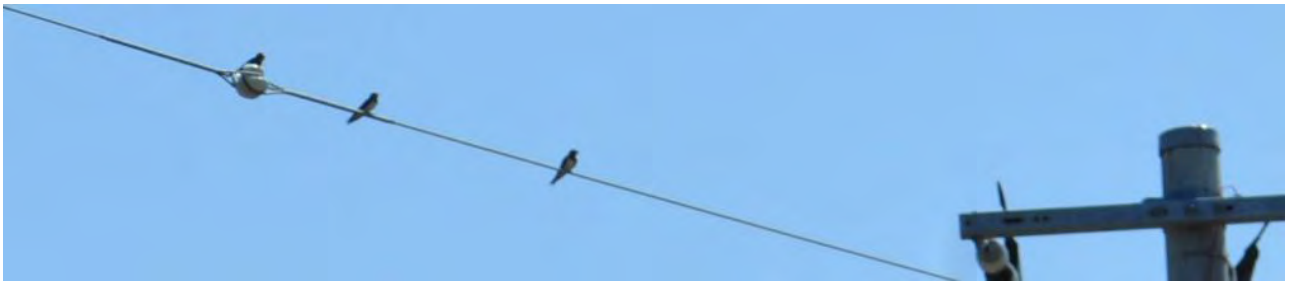


四季の里を出てすぐに、畑が広がっていました。手前の白い花々は、**ソバの花**です。若干早い開花を迎えたようです。後ろにある一面の赤い葉は、**シソ（赤じそ）**の葉です。梅干しを作るときになくてはならないものですね。

さらに進んでいくと、子どもたちが何かを発見したようです。双眼鏡を取り出して、遠くを見つめていますね。

何がいるのでしょうか。



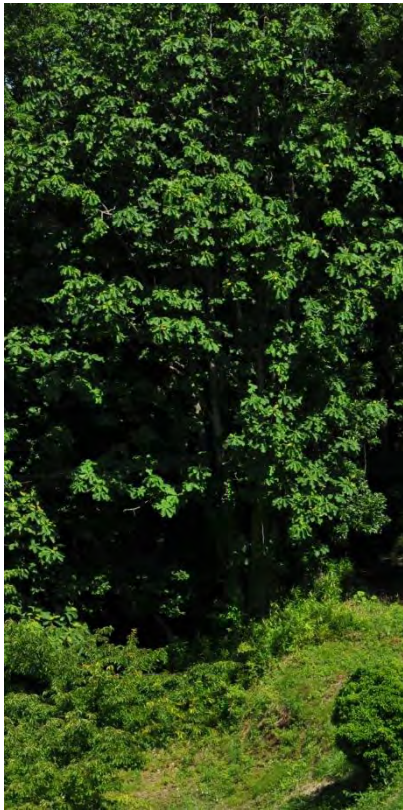


電線に鳥がとまっています。尾が長いですね。「チュビ、チュビ」と鳴いていますよ。この鳥は尾が2つに分かれています。燕尾服の名前の由来にもなっていますね。**ツバメ**です。

大井町には現在2種類のツバメがいます。尾が2つに分かれていないツバメもいます。このツバメは**イワツバメ**と言います。最近新しくできた足柄紫水大橋や上大井地区で見ることができます。

以前は、**コシアカツバメ**もいましたが、今は見かけなくなりました。

あっ、説明が終わったら、ツバメが飛び立ちました！初夏の青空を自由に飛びまわる姿は、とても気持ちよさそうです。



さあ、農村公園に到着です。遠くを見ると、ホオノキの葉が青々と茂っています。大きな葉をもつ**ホオノキ**は、長野県や岐阜県では重宝されているそうで、おい自然園サポーター渡澤さんが、ホオ葉まき（ホオノキの葉を使った和菓子）について説明してくれました。柏餅のようなお菓子です。カシワの葉の代わりにホオノキの葉を使っているんですね。この日のために、写真を用意していただき、詳しく説明してくださいました。

今日のめあては、初夏の生きもののさがし。ひょうたん島があるトンボ池のところまでどんどん行きたいところですが、ゆめの里には自然の魅力がいっぱいあります。

カラムシの葉を見つけて昔遊びに挑戦です。片手をグーにして葉をのせ、もう片方の手で上から勢いよくたたきます。上手にたたくと、ポンッ！と音が出て真ん中にきれいな穴があきます。みんな夢中！！



ここでもおおい自然園サポーターの登場です。一面には、**ドクダミ**の花が咲いていますね。この時期ならではの光景です。

永田さんから「さあ、ドクダミの花はいくつあるでしょうか？」という問いかけに、その場でスケッチ開始です。



一見すると、白い部分が花びらで一つの花のように見えますが…。



実は、花びらに見える部分は、苞（ほう）と呼ばれる器官で、中心部の黄色い部分は、たくさんの花の集合体です。観察をとおして**たくさんの小さな花が集まって**、ひとつの大きな花のように見えることがわかりました。

中津川さんは、大きな紙をおもむろに広げましたよ。

なんと、そこにはびっしりと分解されたドクダミの花が貼ってあるではありませんか！たくさんの花々が集まっているといっても、実際にいくつぐらいあるのか気になりますよね。中津川さんは、それを調べてきてくれたのです。思わず聞き入る子どもたち。

数を数えてみると、1つの集合体につき、**40～60 こぐらいの花**が集まっていました。これを多いと見るか少ないと見るか。反応は様々でした。皆さんも気になったら、ぜひ確かめてみてください。当たり前と思っていることも、「本当にそうかな？」と立ち止まってみることで、新しい発見があるでしょう。

ちなみに、拡大したドクダミの花々の中に一つだけちょっと違うのがあります。皆さんは気づきましたか？そうです、苞が5つあるドクダミが1つだけ混じっています。自然にはいつも例外があるのです。

ドクダミには独特の匂いがありますが、しっかりと洗って乾燥して煎じればドクダミ茶になります。「**十薬**」と言われ、利尿、解熱、便通など様々な効用があるとされています。

さあ、奥へ奥へと進み、ひょうたん島があるトンボ池へ到着です。



トンボ池では発見がいっぱいありました！
脱皮を終え、体を乾かしている**スジクロギンヤンマ**。
シオカラトンボの雌の産卵。
シュレーゲルアオガエルの卵の塊。
アメンボの体のつくりや匂い。
池にあった動物のふん。

まるで私たちが待っていたかのように、生きものたちは様々な姿を見せてくれました。

ちなみにアメンボの名前は、体から飴のような甘いにおいをだすことが由来となっています。砂糖をとるとと煮込んだような匂いです。

それから、水底の影を見ると脚が4本のように見えますが、ちゃんと小さな前脚も2本あります。脚の数は6本ですから、りっぱな昆虫の仲間ですね。

池にあった動物のふんからは、びわの実の種も出てきました。おそらく**タヌキ**か**ハクビシ**のふんでしょう。実に様々な動物が自然園には生息していることが分かります。

さて、説明をしていたら、トンボが近づいてきましたよ。楽しそうな雰囲気を感じて寄ってきたのかもしれませんが。みんなが人差し指を出す中、トンボは決まって一人の指にとまります。そうです、一寸木園長です。トンボにも大人気ですね！





「一寸木園長、こんな葉を見つけたよ。」おもしろい形の葉っぱを見つけた子が園長に届けてくれました。

クリの葉が上手に巻かれています。**オトシブミ**の仲間が中に卵を産み付けて葉を巻いていたのです。卵からかえった幼虫は、しばらく葉を食べて成長していきます。

オトシブミの名前の由来は、昔、他人にわからないように手紙を道端に落とし、伝えたい相手に渡したという「落とし文」から来ています。ただ、オトシブミにも葉を下に落とす種類と落とさない種類があり、この木にいるオトシブミは下には落とさないそうです。

この葉から、どんなオトシブミが生まれるか楽しみです。

四季の里へ戻る途中、クリの木のところで最後の観察です。ちょうど**クリの花**が今をみごろに咲いていました。一つの枝に垂れ下がるようにして多くの花がついているのですが、よく見ると**雄花**と**雌花**があります。

それぞれの枝ごとに、雌花は一番幹に近いほうにやや離れて一つあります。それ以外は全て雄花です。ぜひ皆さんも自分の目で確かめてみてください。



四季の里へ戻り、観察したことを新聞にまとめました。
初夏の生きものをいっぱい見つけることができましたね。
とても楽しい自然観察会になりました。